

防災連絡会議だより

16号

(令和3年9月3日)

発行 北斗市防災連絡会議

北斗市 年平均気温 0.3 度上昇 北海道は暖冬傾向！

気象データは 1991 年～2020 年の 30 年間の平均値に更新されました。年平均気温は全国的に 0.1～0.5℃程度高くなり、降水量も多くの地点で多くなっています。道内では、降雪量は減少し降水量は多くなり、暖冬傾向にあるようです。

前線の停滞により豪雨と土砂災害が発生した西日本。その原因は海水温の上昇により前線に向かって流れ込む水蒸気量の増加によるものです。降水量が増加傾向を示す北日本でもこうした豪雨や土砂災害に対する警戒が必要になってくるものと思われます。

<1981 年～2010 年の平均値と 1991～2020 年の新しい平均値の比較> (気象庁)

北斗市	気温	8.3℃	→	8.6℃	+0.3℃
	降水量	1158.6 ミリ	→	1149.6 ミリ	-9 ミリ
函館市	気温	9.1℃	→	9.4℃	+0.3℃
	降水量	1151.7 ミリ	→	1188 ミリ	+36.3 ミリ
	降雪量	381 センチ	→	306 センチ	-75 センチ

『台風』が教えてくれたこと 熊本 昇さん(久根別)

東京2020オリンピックで日本選手の大活躍を報じる記事と、「台風10号あす関東接近、太平洋側荒天に警戒」「道南大雨、函館で避難指示」の見出しをみながら原稿を書いています。台風の報道に接して私が必ず頭に浮かぶのは「洞爺丸台風」です。

1954年(昭和29年)9月26日、日本海を北上した台風15号により、函館周辺は突風57mにも達する風波に長時間みまわれ、客貨船・洞爺丸、貨物船・第十一青函丸、北見丸、十勝丸、日高丸、計5隻の連絡船が沈没し、乗客、乗組員1,430名もの命が奪われた。特に洞爺丸は旅客を乗せて出航し、防波堤外に投錨するも走錨(錨がきかずに海底を移動してしまい、船を固定できないこと)、機関室への海水の浸水によって機関停止に陥り、七重浜沖で座礁、その後転覆した。〔大神 隆：青函連絡船物語(交通新聞社新書)〕

午後5時を回り、どしゃ降りの雨は嘘のように止んだ。空には茜色の雲が広がり、一旦完全に収まったかに見えたこの年の台風15号だったが、ふたたび吹き始めた南南西の風は、渡島半島一帯を瞬く間に暴風雨に巻き込んでいった。

午後6時半を過ぎると、平均風速は40メートルにまで達し、瞬間最大風速は50メートル強を記録。夜になると、半島を取り巻く各所は、波浪警鐘を鳴らし続ける。しかし、函館港近隣にいた船は次々と荒波に飲み込まれていき、収拾のつかない事態を繰り広げていった。

「おい、青田さんとこのトタンが飛ばされたぞー。桎屋根も飛びそうだ……—青函連絡船洞爺丸事故の続報をお知らせします。今日未明、七重浜に座礁、転覆した四便には、未曾有の光景が広がっています。朝から、行方不明者の捜索を急ぐ作業が始まり、潜水夫らが船内及び海中への潜行を始めました。

また、すでに打ち上げられた遭難者の身元の確認作業は、浜辺から付近の寺院へと場所を移され、遺族たちとの悲しみの対面が繰り広げられています。本船の事故による遭難者は、千人以上になると見込まれています…。〔谷村志穂：大沼ワルツ（小学館）〕

<台風と私の家族>

居住地は七飯町字大沼。父は国鉄職員、職場が函館本線軍川（いくさがわ）駅。現在の沼大駅です。8人家族でしたが姉は松前町に就職したので、父母（50歳代）・私（高2軍川～函館間汽車通学）・弟（中3、小5、小3）・妹（中1）の7人、鉄道官舎での賑やかな暮らしでした。

私たちの住宅は、一年前に駅長官舎の新築移転で空いた部屋数の多い一戸建て、転居を喜んでいました。ガラス戸を擁した長い縁側つきの家は風通しがよく、暑い夏の日でも子どもたちが将棋や読書を楽しめる広い建物、あずましくて大変好評でした。

9月26日午後5時頃、それまでの強い風と激しい雨が突如として弱まり、奇妙な明るささえも感じられ、台風は去ったかと思われました。ところが、2時間後の午後7時過ぎから、これまでに経験したことのない突風と豪雨で家屋が揺れ始め、家族は右往左往の連続でした。そして、あの縁側のガラス戸が飛んできたトタンで破られ、風雨が家中に舞い込んできたのです。

母の指導で畳を起こして立て掛け、和裁で使っているアイロン台、洗い張り用のばん板で補強し、さらに勉強机を置き、子どもたちが必至で押さえました。ガラスの破片で血を流す弟を他の弟や妹が懸命に手当てしました。

父は非番の日でしたが召集がかかり、駅舎の保全・列車の運行・乗降客の誘導安全に努めていたと思われます。そんななか同僚と官舎の見回りをする影も見ました。ずぶ濡れの合羽にあご紐の帽子、黒く汚れた軍手で懐中電灯を回し、ガンバレの合図をして職場に戻る“父の凜とした姿”は、これ以上ない心強いものでした。

一睡もしない恐怖の夜は明けていったのです。

<台風が教えてくれたこと>

○家族が力を合わせることです。一人ひとりができることは必ずあります。それを出し合い、認め合うことが大事です。

○地域の一人ひとりが手を結ぶことです。つなぎ合って一緒に歩きましょう。核家族化が進むいま、近所や地域とともにの思いが生活を支えます。

○自然に対して畏敬の気持ちを持ち続けることです。科学的根拠に基づいた冷静さと謙虚な姿勢を求めて、日ごろの学び合いを続けましょう。

○命の大切さに敏感であることは基本です。函館駅やホームで通学時に目にした御遺族の悲しみの姿は、台風報道を見聞きするたび、まざまざと脳裏に描かれます。忘れてはならないことです。

皆さん初めまして！

今年4月に異動してきました、伊川 友紀（いかわ ゆき）と申します。
昨年までは、約2年間、渡島総合振興局に交流職員として派遣されており、4月からこの総務部総務課交通防災係の一員となりました。

これから、市防災係での「活動日記」を、コラムのように皆さんにお届けしていきたいと思えます。「こんな仕事もやってるんだ〜」「こんなことがあるんだ！」ということを知っていただき、私たちの職務を身近に感じていただきたいです。今回は、7/16に行った除草作業についての写真をお届けします！



↑これは、追分にある北斗市の災害用備蓄倉庫の周り

いざというときに、備蓄品の円滑な流通を促すためにも、日ごろから倉庫の環境整備にも努めています。この日は炎天下の中での作業でしたのでとても大変でした。

皆さんに安心してもらえるよう、日々励んでおります。しかしながら、ちょっぴりきつい仕事でした(;-;)

☆伊川友紀さんのコラムを楽しみにしています。これからもよろしく！（代表より）

津波避難ビル訪問記（8月17日）

上磯高校の巻

防災連絡会議が事務局と一緒に、上磯高校を訪問。教頭先生と防災担当の先生に対応していただき、避難場所になっている教室や災害用トイレやシャワー室、それにエレベーターなどの施設を見学。その後、会議室において話し合いが行われました。

<今年で創立69周年を迎える歴史ある北海道上磯高等学校>

北海道上磯高等学校は1951年（昭和26）、函館商業高校上磯分校として創設され、翌年には北海道上磯高校として独立。その後、1963年（昭和38）に、上磯町立家政女学校との合併を経て、全日制に移行しています。家政科1間口、普通科5間口の大きな高校でしたが、学級減により、現在は普通科1間口の高校になっています。

＜上磯高校の校章に込められたメッセージ、鵬のように＞（40周年記念誌より）



上磯高校の校章には、中国の荘子が描いた雄渾壮大な物語、「鵬鯤（ほうこん）の物語」が潜んでいます。鵬鯤については、「鯤（こん）」と呼ばれる体が数千里にも及ぶ巨大な魚が、背が数千里にも及ぶ巨大な鳥「鵬」と化すというものです。この鵬の頭と頸（くび）の部分、上磯の「上」の字にかたどり、左右にその大きく広げた鵬の翼が描かれているのです。

＜問題解決への道 初めて意見交換が行われる＞

津波避難ビル（高校）の課題は、休日、夜間に誰が開錠を行うかという点です。この事について、8月16日の運営会議で、事務局は関係者に連絡がつかない、関係者が遅れた時には、「開錠ではなく、ガラス等の破壊により侵入し、中から開錠する」、「このことについては事前に学校側からの了承を得る」という考えを示しました。これに対して、運営委員から異論が出されています。また、この問題は上磯高校を訪問した時に、話し合いの場でも取り上げられました。問題解決に必要なことは、話し合いの場を設けることであり、開錠の課題も含めた津波避難ビルの運営については、北斗市と学校管理者、町内会の代表の三者による話し合いを行うことが必要との認識で一致できたと思っています。

上磯高校では、防災学習の取り組みがこれから始まります。学校と地域との連携は、こうした活動を支援することによって生まれます。三者による話し合いの場を設定していただきますようお願いいたします。（上野廣幸）



茂辺地地区に津波避難ビル！

写真は茂辺地地区に誕生した津波避難ビルの茂辺地中央団地。3階建ての団地には地方の方も多数入居しています。津波避難ビルの高さは8.5mで、標示板には大津波時、屋上とあります。北斗市は団地の入居者と町内会の方々に避難ビルについての説明会を行っているそうです。

お知らせ ☆☆☆☆☆

- 北海道が7月に公表した津波浸水想定は、パソコンやスマホから北海道建設政策局維持管理防災課にアクセスし、「津波防災のページ→コンテンツ→羅臼から福島町→北斗市」の順にクリックするとご覧いただけます。やってみてください！！
- 北海道防災訓練（厳冬期）北斗市事前研修会 9月9日（木） かなでーる案内が届いていると思います。ご検討のほどよろしく願いいたします。
- ▲ 高校生の避難所運営研修会 9月17日（金） 8：45～12：40 上磯高校サポートしていただける方は、代表または事務局までお知らせください。

事務局 北斗市総務部総務課交通防災係

電話 73-3111(内線 212) Fax 73-6970 メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp